

自由連合

Libera Federacio
1969年
9月5日
N-ro. 6
岐阜市かめ山354
自由連合社
編集・発行人
向井孝

1部 30円
送料 1部 30円
定価 1部 30円
注 意
住所が変更になりました。
★自由連合社

戦争の主体としての 国家を問ふ

平和のために、国家が問われているようにある。しかし問題はより緊迫している。平和という政治的価値のためにではなく、生存という一片の事実のために、国家が問われなければならない。

「生存にどんな意味があるか」この面にある種の感動を覚えるほど、現代は虚無を宿しているが、人間が、生存に対する信仰を捨てた瞬間、宇宙は地球の破壊を宣告するだろう。

平和とは政治的な価値であり、生存とは事実以外のなにものでもない。国家の阻害するものが、平和でなくして生存すなわち物理的存在としての肉体にまで及んでいることが、国家を問わなくてはならない唯一の理由である。

問題にすぎずは、戦争の主体としての国家である。

「戦争は国家の病理ではなく、生理である。」といった人がいるが、その生理こそ問題である。国家を論ずることは、戦争を論ずることではない。国家を論ずることは、戦争を論ずることではない。国家を論ずることは、戦争を論ずることではない。

「資本論—経済学批判—」が商品の分析を一篇一章にまつように、「国家論—政治学批判—」は、戦争の考察をその最初の仕事として送らなければならない。

戦争の廃止は、主体である政治的国家的断絶によつて実現される。そして政治的国家的断絶は、戦争の主体であると同時に、革命の客体でもあるから、国家断絶の原理は主体・客体を貫くものである。

革命は客体的な国家の克服にはなつたが、主体としての国家の止揚とはなり得なかつた。

現代における究極の問題を、戦争の主体としての国家、とするならば、十九世紀的な革命運動に変わる新しい運動にこそ方向を見出す

市民の叛乱

——その意味——

この20世紀後半という「いま」が当面する問題状況は、およそ三つの面からあらわれている。

第一に、戦争。それゆゑに国家。第二に、差別。民族・人種・マジョリティをふくめての向壁。第三に、人間関係。資本主義とその変貌。

そしてこのいずれもが根底的に「国家」とが「わつてあらわれているものであること。さらにその解決が、既成の「社会主義」ではなしえないことにおいて、20世紀前半の思潮と区別して「きりめ」現代性を特徴といえるだろう。

第一の問題は「た」とは「原水爆兵器の管理が、まづ「保証」されていなければならない状況下に、社会主義は、その危機を「いま」の問題としてどうにも処理しない。その意味に於て世界の反戦運動が、社会主義の闘いを、直接的な「反国家」的傾向において示しているとき、社会主義の革命のテーゼは、それを説明し包摂することができないで、果敢に起ち上がっている。

第二に、第一の問題は「た」とは「原水爆兵器の管理が、まづ「保証」されていなければならない状況下に、社会主義は、その危機を「いま」の問題としてどうにも処理しない。その意味に於て世界の反戦運動が、社会主義の闘いを、直接的な「反国家」的傾向において示しているとき、社会主義の革命のテーゼは、それを説明し包摂することができないで、果敢に起ち上がっている。

第三に、第一の問題は「た」とは「原水爆兵器の管理が、まづ「保証」されていなければならない状況下に、社会主義は、その危機を「いま」の問題としてどうにも処理しない。その意味に於て世界の反戦運動が、社会主義の闘いを、直接的な「反国家」的傾向において示しているとき、社会主義の革命のテーゼは、それを説明し包摂することができないで、果敢に起ち上がっている。

第四に、第一の問題は「た」とは「原水爆兵器の管理が、まづ「保証」されていなければならない状況下に、社会主義は、その危機を「いま」の問題としてどうにも処理しない。その意味に於て世界の反戦運動が、社会主義の闘いを、直接的な「反国家」的傾向において示しているとき、社会主義の革命のテーゼは、それを説明し包摂することができないで、果敢に起ち上がっている。

「自己否定から「個」としての人間復興の闘い」という「きりめ」根底的な現代革命の状況をつくり出している。そしてその「市民の叛乱」ともいうべきものの性格は、「国家」と直接的に「対峙」していることにおいて、社会主義の「ワケ」の中に単純にはないものとなつていく。

科学的な社会主義にとつてその基盤であり、革命の主体たるべき「労働者階級」は、もはや労働者階級という概念では完全に「括しきれない状況」として「いま」あらわれているのではない。しかし、新左翼といひ、反スター反代々木が、いざんとしてマルクスレーニンであるが、その革命は「階級意識」をもつた労働者階級の立ち上りとして、という「19世紀的」な古典的革命的闘いに立たざるをえない。そして依然として、反戦青年軍等若干の労働者組織からの発展を、その期待においてみるというならば、それは全世界的傾向として歴史的にあらわれている労働者全般の大勢との対照において「革命的状況」は一部の主観にしか存在しない、と云わねばならぬのではない。

にもかゝらず、いまわたしたちが当面する問題状況は、きりめとして「現代の革命状況をつくり出している」。

とすれば「いま」わたしたちにとって「もつとも必要」とは、「労働者階級」というカテゴリーを「包摂した」「新しい革命の主体の概念」とそのカテゴリーの位置づけであり、その意識化ということであろう。

すなわち、現代の問題状況において、国家の抑圧をまともに受け、それゆゑにこそ「革命」をどのような意味でも必要とする階級を、どのようなものとして規定し、どのような名で呼ぶか。

すでにわたしたちは、社会主義的な定義と歴史的な概念によつて手あかまみれて規定されている「市民」といふ、すこぶるあいまいで「ざん」とした言葉を、無自覚ながら、若干の新しい意味をこめて使い出しているという事実がある。

その是非はともかく、20世紀後半（2頁—下段右端へつづく—）

自由発言

ぼくたちの

目的は……

ぼくたちの目的は人間の
総体的な自由をわがもの
にすることにある。アナ
キズム、マルクス主義等
々はこの目的を成し遂げ
るための手段である。こ
の目的の實現にとって伝統的アナ
キズムが不十分であるとわかつた
ら、目的に添うように手段を革新
しなくてはならない。それが目的
と手段の一致であり、古い手段に
固執して目的を見失う誤りを教條
主義というのである。

ぼくたちはみな過去の古い殻を
背負っている。ある場合には殻の
なかに閉じこもっている方が快い
。けれどもそこから現実を革新
するエネルギーは出てこない。殻
は日に日に固められるがゆえに、
日に日に打ち砕かれなくてはなら
ない。それが自我の棄絶である。
アナキズムが現実を革新する力
となるためには、まず既成の殻を
解体する必要がある。よかれあし
かれ現実革新の力となった思想へ
シンボルとしてのレーニン、毛沢
東、カストロを包みこむ視野の
なかでとらえ直す必要がある。レ
ーニンは権力主義、バクーニンは
反権力主義といった既成の公式か
らぼくらを解放し、新しい位相
のなかに彼らを置いてみたい。そ
の作業がいま要求されている。

(表、インフォメーションNo4より)

ある市民運動論

我々にとつて、例えば、平連な
どの市民運動は、その無党派性と
直接行動ゆえに評価される。しか
し我々はよく次の言葉を口にす。
市民運動意識に没してはならない
と。ところが、市民運動を認め
ることと意識を否定することは論
理的に矛盾しているのではないが、
我々が市民運動意識というとき
そこに革新運動とは関係のない体
制内運動を、そしてそんな市民の
姿をイメージしている。だがそれ
な市民も、現実の斗いの行動では
我々とそれほどの大差があるとは
思えない。もし我々と違ふところ
があるとするれば、我々の相手の
本質をはずり認識しえないので
はないかという点だろう。だが

ほんとうにそうか。それは市民その
ものに固定化して不可変のものなの
か。

市民とは、フルブルの多体制内の存
在である。市民はその意識をもち、
それに立脚して運動をしている。と
いう観念を固持して自らを疑うこと
なく、そこからのみ市民運動をとり
出しているのが、実は我々をも含めた
「前代党」の理論ではなかつたか。
それゆえ前代党にとつて、市民や
その運動は「指導されるもの」「自
己に追随すべきもの」として位置づ
けられている。それは自己を指導者
の立場に位置づける思想そのものの裏
は逆に浮かびあがらせていることに
おいてエセ前代性をバクロしている。
市民運動意識とその限界、限界の
ない運動なんてあるだろうか。は、
市民自らの問題として、まさに自ら
が乗り起さるべきものとしての、市
民にとつての内在的問題であり、外
部から他律的に指導されるものでは
ない。そのことのきわめて現代的な
意味として、市民運動における無党
派性、直接行動性としてあらわれ
ているのだ。

(かつての市民の平和運動はいつし
か党派、日共市民の「勢力拡大」と利
害に利用され形骸化されていった。
我々は原水禁運動にその典型をみる
ことができる。そしていままた、市
民運動の批判と止めつけにおいて、
かつての政治党派と全く同じ発想と
相似の包芽を見出すことができるの
ではないか。)

(唯一者、一号(信州大アナ野郎))

衷切者は

お前たちだ

五津 優

私達は和田俊一が展開を企てた世
界、具現せんと図った空間が狂気に
近い観で在った事を知らねばならぬ
であろう。また背叛社がその言語表
現で在った世界とは、いませいで知
られて以上にとつた質量で進行
し崩壊し去ったことを知る目がある
であろう。

権力との、彼が明かした関係は、
個の限界を究めた先での主観的には
彼が当然取り込み逆用しようものと
して在ったのであり、決して意圖的
に運動を権力に売ろうとする企てと
してはなかつたことは、彼の行動の
軌跡から我々が知り得、知り得ねば
ならないもののなだ。

「一頁より」

市民の叛乱の意味

(前頁よりつづく) から別荘にむけて新
しい意味をもつて出現しはじめてい
るこの「市民」(一)は、ぼくは新宿など
にみる野次馬をもこの中に含めてい
る。という言葉を呼ばれている混沌
したものを、過去のイメージから実
質的にも断絶せしめる斗いをそぶく
のていまい改めどこのように仰びど
のように把えていくかということに
おいて、きわめて重要な地味に立っ
ているのではないだろうか。

(本稿は「思想の科」9月号にかけた
その抄出補訂した)(何井 彦)

(衷切者はお前たちだ)
(中段は端よりつづく) 単に原理的正当性の
誇示に自足するにとまり、革命へ
の里程を苦斗する者たちの万分の一
の努力を怠りながら、実践との乖
離をはばかりることもなく己を主義者
と仰び続けた者への、頁の告発の他
の何で在りよう。

いったい、三回の公判での彼の権
力との関係を明らかにした発言を自
身の痛み、自己の恥部の告発と聞い
たものが、中傷をこととする者の中
に後々あつたろう。

彼の行為に首肯しえぬ部分は在る。
それを彼の現在に至る連続性から切
断分化させ、処断すること何が一
体免罪されよう。けれど一片の行
為の当否を規範に求めるのは誰の手
口であつたろう。忘れもしない権力
とその走狗達、裁判官諸氏のもので
はなかつたか。

私は政治的世界での、権力との緊
張を誰にでも要求しようとは考へな
い。たとえ幾度の特権、転回で異郷
のせに在ろうとその地味で、透徹し
た眼差しを権力の相親の内幕に向け
るなら、否定者としての定立は可能
と考へるからである。

無政府主義者諸氏よ、あなた達が
どんな世界に在ろうと、その持す世
界とともに、和田俊一への諸氏の反
応こそが、彼の、転位、以上に嘲ら
れるべきことに早く気付かれたい。

(「転定」 零号より抄出)

★ お詫びします。

一存

本号発行は約半ヶ月おくれた。
そして問合せなど多数の方に心
配かけた。丁度例月製作期に当
る6月12日をハンパク(そで
日刊ハンパク)を発行した)に
込んだこと。姫路での行動も
く16、22、26とついでにいたしたので。

伝言板

- 1. 仕事入ゆくとき、どんな交通機関も使わない。歩きながらデモを形作る。
- 2. 主演役者を困らせぬために、その日は映画、劇場へ行くな。
- 3. 店での買物をしない。必需品は前日まで買おう。
- 4. 去年の占領によって犠牲になった墓を、花で一ぱいに飾ろう。
- 5. 新聞、雑誌は一切買わない。
- 6. レストラン、喫茶店に入るな。
- 7. 我々の歴史のなかの偉大な人物の像や碑をかざれ。
- 8. 正午12時、すべての人は動きをやめ、5分間の沈黙を！
- 9. 自動車はとまり、ライトをつけよ。
- 10. この日のことを世界中の友人に知らせよう。このピラをうけとつたものは、同じものをうけとつて友人に渡そう。恥辱の日の勝利のために。

旗・2題

インターデの丸を掲揚

8月11日朝、大阪市内にある大阪府警機動隊宿舎の大阪旗掲揚塔は、定刻からあけること4分あまり、君ヶ代ならぬインターの大令旗にぶつて、またもと夏空にひるがえった。というのは、昨あたる大阪城公園でひらかれていたハンパク会場に泊りこんでいたファイのやからが、徹夜討論の眠気ましましと数百人が早朝にもまげず、城壁の下におしよせ、府警が君ヶ代で回旗をあげようとすると、天までとけけと拡声機までもち出してのインターをうたい出し、それにあわて回旗掲揚が中止になるというくり返しがついた。あげくの果はとうとうしびれをきらして、インターの中ですると回旗掲揚を府警はへおそれ多くもしやつてのけた、というお話。

札幌道庁に、突如へ平連旗

6月22日、札幌大谷会館でひらかれた評議会のあと、参加者は市内デモにうつった。フランスデモ、ジクザクデモ、シュプレヒコールにフオークソング。千三百人に

くれあがつた隊列に、あわてた機動隊は増援をくり出したがどうにもならない。道庁前で集つて最後の総括集会にうつつたところ、こわいかに広場の回旗掲揚ポールにスルスルとひるがえりながら、白と緑の平連旗が中空高くのぼりついで、はためきだしたのだ！ カッコー！

来日したモーリス君

仙のアルゴ・サンジカリストグループICの国際青年連絡会試メメンバーのフイマ・モーリス君は、日本の学生運動、労働運動事情に熱れるため7月8月と滞日。大阪での集会で「ぼくは理想の世界にゐるアナキストではない。むしろ現実マルキストでもある」ということは初期マルキストであつてもレーニン主義者ではない。ぼくはアナキストほどマルキストである人々を知らない。だが又、中にはアナキストという名に安住している人もいる。」と語つた。彼のようにアナキズムとマルキズムの共通項を多く見出せうとする立場、初期マルクスを評価する考え方は、五月革命以降、フランスにみられる強い傾向で、いわば左翼運動の成熟概念がうけてつてきてゐることを物語つてゐる。

米国で佐藤の来米阻止デモを決定

WR（戦争抵抗者インターナショナル）は8月25日から31日までニューヨークで世界大会をひらいた。（向井宛七五〇ドル旅費をもつという指請がきていたが不参）この大会にはロンドンのWR本部に尾関弘が滞留中ゆきかけて、日本安保条約と沖縄に関する特別分科会がつくられ、日本支部からも英文報告と資料が提出されていた。いま入った速報によると、WRは、とくにアメリカのWR（戦争抵抗者連盟）米国の組織を中心し、日本の11月佐藤訪米阻止斗争に呼应し、佐藤の来訪米に対し、阻止デモをもつて手うことを決めた。

佐藤よ、日本をどうにかこうにか逃がして、アメリカでも我々の仲間がすばらしい歓迎をしてくれることを望むぜよ！

近藤憲二同志！死去

4月、病床を昇つたとき、タノミマスヨと大きな眼でぼくをにらみつけた。そのわかれが忘れられない。

ヒロチン社
中浜哲 遺稿詩集刊行記念
講演会

とき 9月23日（祭） 夜6〜9時
ところ 大阪府立労働会館（天満橋）
工部 詩と反抗—中浜哲について—
工部 ノンセクトラジカルの思想を問う。
帰国報告 救石の下は新しい世界
だー仏五月革命について—尾南弘
主催 923講演実行委員会
向合せ—大阪—七四一九八八まで

今週の脱走兵

（七月十三日—二十六日）

JATEC

期間中、連絡をとつてきた米兵の数。—合計二八名。

北海道	2名
関東	16名
関西	6名
中国	1名
九州	3名

そのうち、近く脱走を予定しているもの — 12名。

米軍内にどまつて、反戦活動をつづけるもの — 5名

脱走した米兵の累計 〇〇〇名

今週の脱走兵

（脱走兵通信 1号より）

期間中連絡をとつてきた米兵の数。—合計三二名。

北海道	0名
東北	1名
関東	15名
関西	9名
中国	2名
九州	5名

そのうち、近く脱走を予定しているもの — 11名

米軍内にどまつて、反戦活動をつづけるもの — 9名。

（脱走兵通信 2号より）

脱走兵通信—発行—東京都保谷市中町2-2-13、大久保カ・イントレビッド四人の会。（協力・平連・ジャテック）一部40円以上のカンパをそえて定期購読申込みを。

求ム—脱走兵のためにあなたができることを！

部屋。脱走兵をかくまう空間。団地でも田舎の離れ屋でも。期間は一日でも、勿論長くても。

資金—脱走兵の食料、衣服、移動、国外送り出しのためにぜひ。

連載 アナキズム

武者修業記②

(前号) ORAへアナキスト革命組織のマルセーユ結成大会に違反した3月22日グループの学生は、多勢に山数、奥力で会場から追い出され、大会は彼らを降したまま続けられた。(ぼくらと一しょにニースから参加したアトスは、なんとが二つのグループをくっつけようとしたが成功しなかった。またニースの仲間の反応も複雑だった。前からORAと交渉のあったジョン・ルックをのぞいて、ニースの青年マフノの息は、これからおそらく、フランスアナキストともORAとも等しく、ある程度の距離を保つて接することになつていくだろう。)

この造反が明らかになったものは、ORAの硬直的な組織主義と非大衆性である。五月革命以後のフランス全土に一般化した大衆的アナキシーの雰囲気と断絶したところにある。古いアナキズムの固守である。ここもまた古いアナキズムと新しいアナキズムの葛藤をまねかれなかつた。それはアナキズム運動伝統の地ゆえに、新しいものが簡単にとって代れないということと共に、まさに今がその過渡期であることを意味していた。たゞ云々することは、新しいものが着実に発言権を増している。それゆえに、古いものに対してよりも、大衆の海に向つてアナキズムが溶解しはじめている現象によつてさうであつた。

× × × × ×
大会を出たばかりは、トラックで再び同じ道を通つてニースに戻つてきた。時間があつたのでトラックはまっすぐ、ニースのアナキストグループのボスである、プラナスの経営するバーに直行した。バーといつても、ごく大衆的な居酒屋で、食事時には食事を提供する。主として、主人のアナキストは、そんなところにならざる酒呑みの相手を根気よくつづけている。人のよい爺さんという感じである。

ところが、その店の酒ビンを並べた大棚の端をおすと、壁全体がぐらりと回転し、壁の向うの酒倉への通路がひらかれる。一と

その密室の正面には、タタミ二枚ほどのCNTの大旗が張りつけてあり、その上にはCNTが目指した秘密の組織図が、さまざまな色をつかって、細かく描かれてある。その他、スティー・エスプラント学習をすすめるボスター等々、それに無数のアナキズム文庫、パンフレット類がびっしりあさまつた書棚が壁をおおっている。一驚いたことには、エスプラント語のボスターのひょうに「万国共通語エスプラントを学べ」という日本語がはいっていた。スペイン革命当時、スペインのアナキストと直接連絡をとつていた日本アナキストが居たのだ。(一々念のため、千葉県市川市に在住の山根義治氏である。)(まへ見聞)ヤマガの名は、かくりする位、多くの人に知られている。)

プラナスは、ダニエル・グランドと個人的親交をもつて、ぼくが出会った最初の、そして最も偉大なと感じたアナキスト。亡命地であるこのニースで、アナキストグループの相談役(運動や理論だけでなく、アナキズム文庫、はては就職、恋愛、生活の相談まで)を受けながら、一方でこのつとめ、スペイン革命史をかいていた。

× × × × ×
プラナスにマルセイユの大会のことを話したとき、日頃おとなしい彼が、急に激昂しはじめた。

「ボルはいつもこうなんだ。話がわかったような顔をして、ちっとも判らなない。そのうち政府が目の前にちらつきはじめると尻をまくつてアナキストに敵対してくるんだ。おれたちはガタロニヤでそれをイヤという程味やつたんだ。」

「という、3月22日運動や、コンバンデーなど、ボルというわけですか。」

「ボルとは有難くない。しかし、いつでもボルになる可能性をもっているのだ。つねにおれたち自身も、もきびしく含め、その危険を冒しているのだ。いまアナキストのような顔をしていてもわからない。これはかつてのスペインの斗士に共通してある、ぬぐいがたい視覚である。一だが今の状況は、そのような原理的、歴史的事実の正しさも裏り起る新しい事情として、生起してきているのではないかと反論しながら、やはり無理もないと感じた。

二日間の強行スケジュールのつかれで、その夜はぐっすり眠った。めがさのるとベッドまで射し込んだ晩秋の朝日が、あかるい快晴を告げていた。その日から三週間、休暇をとつてあつたので、前からの予定どおり、イタリア・スイスのアナキスト訪問を果行することにした。午前中はたまった洗濯をし、昼すぎに風呂に洗面具をつづみ、短パンにゾウリバキ、カサを持つて、最初の目的地モナコへ向つた。

編集室

★ 8月6日から12日ひるまで、自連編集局とその印刷設備一切に加えて、姫路行動の古道具は、大阪のハンパタの会場へ引越した。(つまりその間、自連社は消えてなくなり、日刊ハンパタ新聞社が出現したのである。社員はオドロクなかれ、売子まであわせると、八人半。(半は半日だけ泊ぐましくも手伝った可憐な...)の人数。ノ号の号は売切れ、6号発行して約六千部をうりさばいた。差引計算しての収益は反格差合ヘカニヤとして納入したが、ハンパタ唯一の異業団体ではなかつたろうか。

★ 6日間を通じて、ぼくはあきらなく、時間ほとんどおぼろげなまま、だまた使エルのなまなうヤツは誰ですか。)

★ それが終わると、ここ数ヶ月つくつく黒い夜が、またもつてきた。それで、自連社は、さうどうにも放つていくわけにはいかないう月末まで消えたままだった。

★ 6号一頁と二頁を、さう死ぬようなおもいでガツテイングをきつたとき、尾関君が予定より数日はやくやつてきた。(彼はハンパタ後すぐ中絶の伊江島へワークキャンプに出かけた。そのルは、次号にのせられるだろう。)

★ 本号二枚とした。引続きワラを半月以内に出す。それは、必ず本格的に尾関君が編集するものとす。